

ポーランド・マクロ経済情勢

2022年12月
在ポーランド日本国大使館
経済班

ポイント

1 景気は引き続き堅調

景気は、新型コロナウイルス感染症の影響後、持ち直しの動きが続いているものの、経済成長は再び鈍化し始めている。2月24日のロシアによるウクライナ侵攻の影響等を受け、国内はエネルギー価格・食料品価格が記録的な高騰を続け、17%以上の高いインフレ状況に推移している。2022年9月、金融政策委員会は2021年10月以降11度目となる利上げを行い、政策金利を6.75%に引き上げた。

2 生産及び消費は持ち直しの動きが続いている

2022年10月の鉱工業生産は対前年同月比6.8%増、小売販売は対前年同月比0.7%増。生産及び消費は持ち直しの動きが続いている。

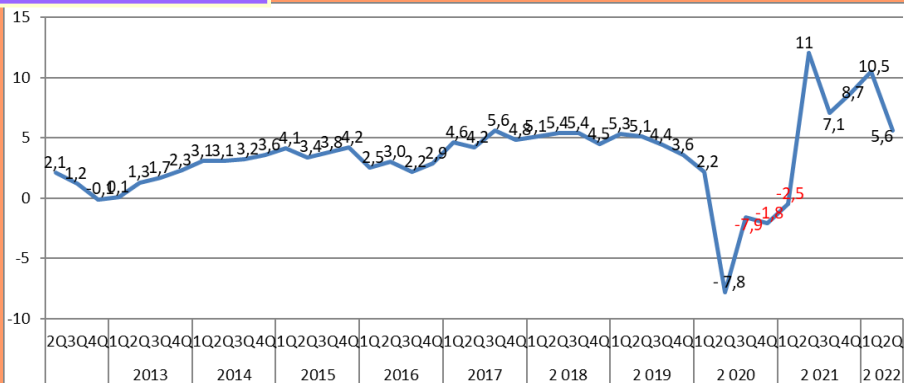
3 物価は記録的な上昇

2022年10月の消費者物価指数（CPI）は、対前年同月比17.9%上昇。前月に続き、中央銀行のインフレ目標値2.5±1%を大きく上回った。

4 雇用情勢は持ち直している

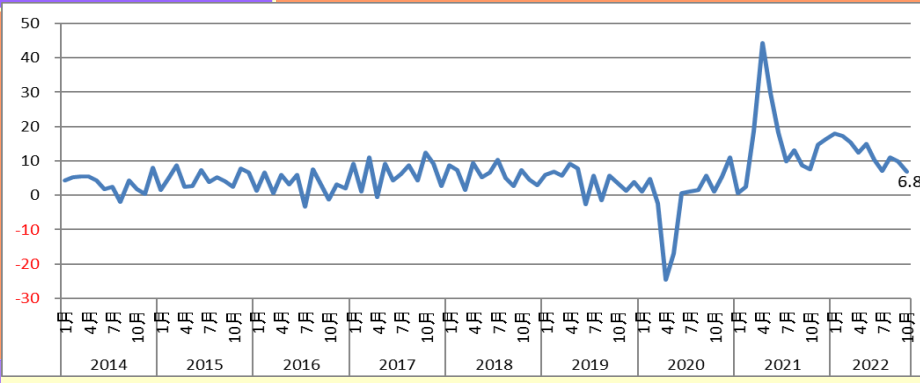
2022年10月の失業率は5.1%、平均賃金上昇率は対前年同月比13%増。失業率は前月から横ばい。賃金が上昇しているが、雇用情勢は横ばい。

経済成長



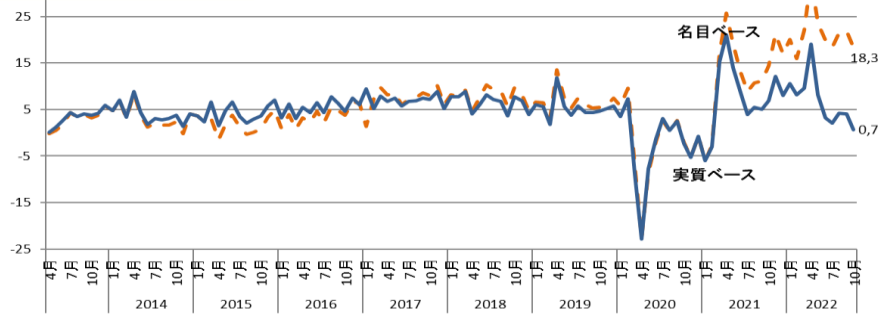
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響等により厳しい状況が続いていたが、このところ持ち直してきている。

生産

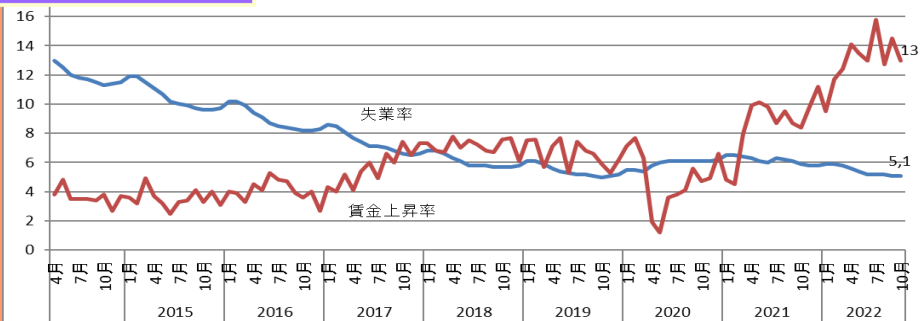


10月の鉱工業生産は対前年同月比6.8%増と持ち直しの動きが続いている。

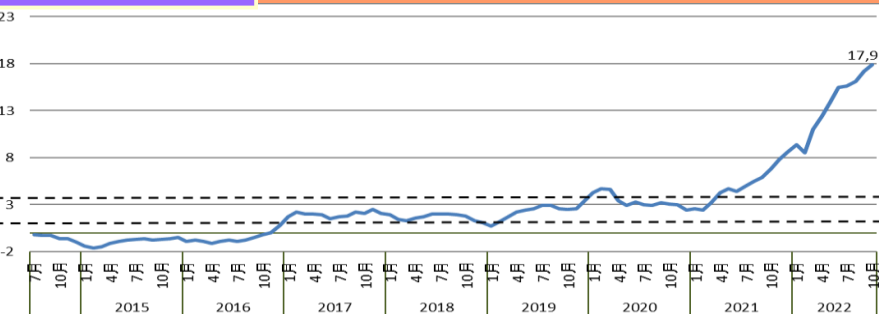
消費



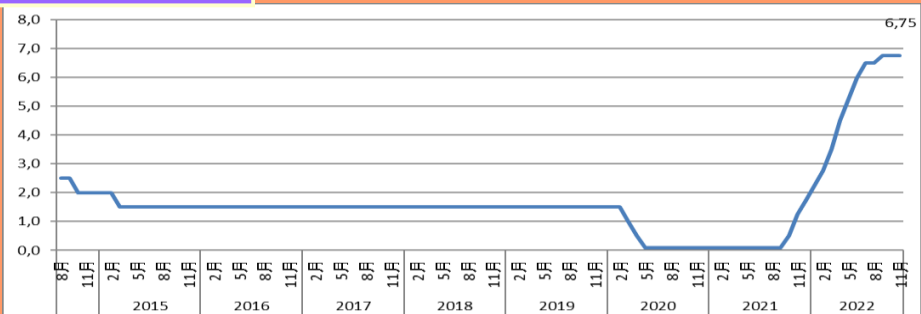
雇用



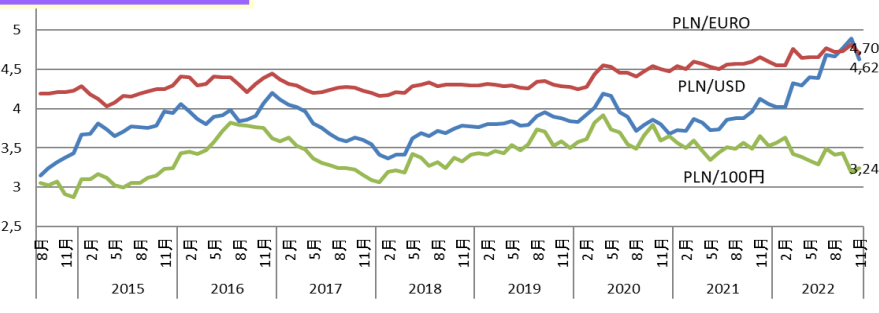
物価



金利



為替



貿易

